

## 分析機器部門講習会シリーズ

「遺伝子機能解析研究を支えるテクノロジー」セミナー  
のお知らせ

【概要】マイクロアレイやリアルタイム定量PCRによる遺伝子発現解析から興味深い挙動を示す遺伝子を発見した場合、次のステップとしてその遺伝子の機能に興味が持たれます。遺伝子の機能解析といっても様々なアプローチがありますが、本日はその中でも基礎的な技術であるタンパク質発現系、変異導入法(ミュータジェネシス)について理論的背景やアプリケーション例をご紹介します。

日 時 : 平成 21 年 3 月 25 日 (水) 15 : 00 ~ 16 : 30  
受講対象 : 利用者  
講 師 : アジレント・テクノロジー ストラタジーン製品部門 吉崎 史子  
講習内容 :

## 1. タンパク質発現系 ~基礎とトラブルシューティング~

タンパク質発現実験は遺伝子の機能解析を行う上で不可欠といえます。本セミナーでは、様々なタンパク質発現系の中から大腸菌による発現系を中心に、基礎や選び方のコツをご紹介します。大腸菌による発現系は取り扱いが容易、低コストで多量のタンパク質を産生できるなどのメリットがあり多くの研究に用いられていますが、タンパク質全長が発現されない、発現させるタンパク質の毒性により大腸菌が増殖しない、発現されたタンパク質が不溶性になってしまうなど、様々な実験上のトラブルも発生します。それらのケースでのトラブルシューティングの考え方や大腸菌株の選び方のコツをご紹介します。

## 2. 変異導入法 ~最先端のアプリケーション~

遺伝子変異導入法は、タンパク質の機能解析、プロモーター解析など様々な研究でもっとも重要な研究手法の一つです。本セミナーでは、ランダムな変異導入、部位特異的な変異導入を簡単かつ効率よく行う方法をご紹介します。部位特異的な変異導入では特定の塩基への置換、挿入、欠失変異の導入に加えて、あるアミノ酸のコードンをランダムにすべてのアミノ酸のコードンに置換したライブラリーを構築することも出来ます。論文として発表されている実施例を交えて変異導入法のアプリケーションをご紹介します。

場 所 : 実習講義棟 3 階 302 ゼミ室  
定 員 : 20 人  
受 講 料 : 無料  
申込期間 : 平成 21 年 3 月 19 日 (木) まで  
申込方法 : 電子メールで、Subject を gene-analysis とし、「所属講座名」「氏名」「内線番号」  
「電子メールアドレス」を明記の上、yitoh@med.nagoya-u.ac.jp 宛にお申込ください。

## お問い合わせ先

医学教育研究支援センター 分析機器部門

(内線: 2403, Email: yitoh@med.nagoya-u.ac.jp)

\* Web でも講習会情報を掲載しています

(URL: <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/kiki/workshop/index.html>)